



## KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018

### アーティスト第一弾発表

京都国際舞台芸術祭実行委員会は、このたび、9回目となるフェスティバル「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018」を2018年10月6日から10月28日の23日間にわたって、ロームシアター京都をメイン会場に開催します。

今回は、女性アーティストおよび女性性をアイデンティティとするアーティスト／カンパニーにフォーカスを当てた全12プログラムを紹介します。また本プログラムでは、日仏交流160周年及び京都・パリ友情盟約締結60周年を記念し、複数のフランス人アーティストの作品も上演されます。

「女性」をキーワードにウェブサイトでのリレーコラムやトークイベントなど、観劇体験を深めるための多彩な関連コンテンツも充実させ、様々な角度からプログラムに触れる機会を提供します。

KYOTO EXPERIMENT の新たな試みに、どうぞご期待ください。

#### KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018

**開催期間**：2018年10月6日（土）-10月28日（日）[23日間]

**会場**：ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、ほか

**公式プログラム参加アーティスト**：

ウースターグループ [アメリカ、ニューヨーク]

フランソワ・シェニヨール&セシリア・ベンゴレア [フランス、パリ]

市原佐都子/Q [東京]

ほか

**主催**：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、

京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

●第二弾の参加アーティストおよびプログラムの全容は、2018年7月上旬に行う記者会見にて発表予定。

●KYOTO EXPERIMENT のウェブサイトが本日よりリニューアル！

2010年の第一回から現在までのフェスティバルのアーカイブをご覧ください。

最新情報は公式ウェブサイトにてお知らせします。 <https://kyoto-ex.jp>

\*公式プログラムのほか、フェスティバル開催期間に京都で行われる様々な作品発表を紹介する、フリンジ「オープンエントリー作品」（現在登録受付中 [5/13 〆切]）、トーク等の関連イベントを開催予定。



# KYOTO EXPERIMENT 2018

京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

## 一度気づいたことから目を逸らさないために

### ーディレクターズ・ノートを書くための備忘録

世の中には怒りや侮蔑、猜疑に恥辱、苦渋の言葉が溢れている。ツイッターやフェイスブックを見れば明らかだ。人々は罵り合い、自らを擁護し、他者を見下す。それだけではない。街を歩けばセンスのない注意喚起の貼り紙、けたたましい車内・店内アナウンス、中吊り広告の卑猥な見出しの雑誌宣伝。他者への想像力を欠き、自分以外の外に不満や欲望を撒き散らし、それがブーメランのように返ってきてストレスを溜め込んだその姿が、いま私たちが住む世の中だ。どうしてこんなことになってしまったのか。

KYOTO EXPERIMENT の仲間から最近言われて印象的だったのは、私のプログラミングには性的なニュアンスが多い、ということだ。強く意識したことはなかったが、ああそうかも、とも思った。おそらくそれは、一生まれて初めて言葉にする事だが—自分のセクシュアル・アイデンティティについてささやかな疑問を抱いて生きてきたからだろうと思う。私は、勉学や仕事よりも、性意識によって自らのアイデンティティを考えてきたことが多い気がする。その意識は他人との距離、関わり方にも単純化できない何かを産み落とした。性にまつわるアイデンティティの問題が、関係性の問題でもあるのなら、きっとジェンダーの問題は、芸術上の美意識に限らず、政治や経済、そして国家や民族とも様々に結びついているはずだ。今回のプログラムを考える上での出発点にするのも悪くない。

多くの人が指摘している事だが、人間を“Man”と言うように、「男」性を人間一般としてきたことの問題がある。それが男であろうと女であろうと、家父長制を内面化した視点を持つ人々が支配するのが現在の社会である。それを内面化できない人々は、—女性だけでなくセクシュアル・マイノリティなど様々なグラデーションがあるにせよ—家父長制を中心に据えた客観的な視点と、そこからズレた自らの視点を両方持ち、その間の距離を押し測りながら生きている。距離を押し測ること、それは他者の立場を思う想像力と言っても良いだろう。ところでKYOTO EXPERIMENT 2018の公式プログラムは、女性性をアイデンティティの中核に据えたアーティストによって占められる。これは家父長制を中心に据えた視点そのものを脱臼させることができるだろうか？

圧倒的多数の男性が取り仕切る舞台芸術の世界、それは作品創作においても配給システムにおいてもそうなのだが、新しい表現を生むためにはその世界自体を疑って見なければならぬと思った。そこで女性アーティストで占められたプログラム、と言うのは安直かもしれない。男女をそのままひっくり返ただけで、逆に二項対立を煽るようなことになるかもしれない懸念もある。女性やセクシュアル・マイノリティを社会のアウトサイダーとして不用意に特権化してしまい、後期資本主義下のパターンリズムに加担してしまうことからどのように逃れることができるのか、と言うことも課題。考えなければいけないことはたくさんあるが、大切なのは自らの視点を粘り強く鍛え磨くことだ。

これからKYOTO EXPERIMENTのウェブ上で続く、様々な分野の書き手によるコラムで展開される論点を参照しながら、今回のフェスティバルで観客やアーティストと共有したいテーマをより明らかにしていきたいと思う。

2018年4月24日

橋本裕介

KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター



# KYOTO EXPERIMENT 2018

京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

本資料に掲載の画像は公式ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。

▶プレスページ：<https://kyoto-ex.jp/home/press/>

▶パスワード：pr@kyoto-ex.jp までお問合せください

## 【参加アーティスト】

### ウースターグループ [演劇 | アメリカ、ニューヨーク]

#### The Wooster Group

ウースターグループは1975年に設立され、エリザベス・ルコンプトが率いてきた劇団。ニューヨークのロウアー・マンハッタンのソーホーにあるアトリエ「パフォーミング・ガレージ」を拠点に活動。南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど世界各地へのツアー公演を展開し、オビー賞やベッシー賞の受賞や、全米芸術基金現役アンサンブル助成などを獲得している。作品は演劇に映像や他ジャンルのメディアを取り入れたパイオニアであり、視覚メディア、音響、建築／構成的デザイン、テキストとライブ・パフォーマンスを融合。設立以来、ルコンプトの演出で40作を超える演劇、ダンス、映画、ビデオ作品を発表し、実験演劇の最前線に立ち続けている。2015年にはフェスティバル「サウンド・ライブ・トーキョー」にて初来日し、『初期シェーカー聖歌』を上演した。



Photo by Steve Gunther

### フランソワ・シェニョー&セシリア・ベンゴレア [ダンス | フランス、パリ]

#### François Chaignaud & Cecilia Bengolea

パリ国立高等音楽・舞踊学校に学んだフランソワ・シェニョーと、ブエノスアイレス大学で舞踊や哲学を学んだセシリア・ベンゴレア。2005年よりタッグを組むこの2人の飽くなき対話を通じて、知的かつ躍動感あふれる鮮烈な作品を生み出している。『Danses Libres』(2010)の制作をきっかけに、より厳密ながら遊び心があり、官能的かつ辛辣で理想主義的なダンスを追求するようになる。2009年にSyndicat de la Critiqueより批評家新鋭舞踊家賞を受賞。2014年の光州ビエンナーレでは、それまでの活動が評価され、新進アーティスト賞を受賞。フェスティバル・ドートンヌ、アヴィニオン演劇祭をはじめとする多くの国際舞台で作品を発表している。KYOTO EXPERIMENTには2014年『TWERK』以来、2度目の招聘となる。



Photo by Takuya Matsumi

### 市原佐都子 / Q [演劇 | 東京]

劇作家・演出家・小説家。1988年生まれ。桜美林大学にて演劇を学ぶ。2011年よりQ始動。モノローグを基調に生きることの不条理さ・混迷する世界で輝く人間の生命力を女性の視点で語る。俳優の身体に重きを置く演出ながら、言葉による表現・リズム感を重視した作風が特徴。人間の行動を動物を観察するかのような目線で捉え再構築した作品からは、命の力強さ躍動感を直接浴びるように感じることができる。

2011年、戯曲『虫』で第11回AAF戯曲賞受賞。2016年文芸誌「すばる」にて小説『虫』を発表。2017年、『毛美子不毛話』が第61回岸田國士戯曲賞最終候補となる。同作品は韓国ソウルマージナルシアターフェスティバル公式プログラムとして招聘され、上演。セゾン文化財団ジュニアフェローアーティスト。



Photo by Mizuki Sato